

『生き方を学ぶ講演会』

日 時：平成30年2月8日（木）13：00～15：00

場 所：早月中学校 体育館

テーマ：夢をもつことで人は変わる

講 師：宮島 徹也 氏

【内 容】

二人の兄の影響を受けてバスケットボールに興味を持つようになった。体格にも恵まれ、幼少期からいろいろなスポーツを経験し、バスケットボールが大好きになった。バスケットチームのコーチによく怒られるのが嫌で、練習を休みがちになった時もあったが、父親が付けてくれた自分の名前の「徹也」には『自分の決めたことはやり通す』という意味が込められていることを知り、再度頑張ろうと思った。

中学2年の秋、バスケットボール県選抜チーム入りを目指し、練習に励んでいたが、選考会中に左ひざ靭帯を断裂する大けがを負い、二度の手術により太ももから下を切断した。周囲に「死にたい」と当たり散らす日々が続いたが、お母さんや家族に支えられ、心強い友達に励まされ、「もう一度バスケットをしたい」という気持ちになれた。車いすバスケットの漫画を読み「車椅子バスケットの日本代表選手になる！」という夢をもった。

このように挫折から立ち直るまでの心情を話されました。

生徒へのメッセージとして

北京・ロンドン・リオパラリンピック車椅子バスケット日本代表選手に選ばれ夢は叶えたけれど、今は世界で通用する強い選手になることが目標であり、夢である。そのためには一日一日をやり切る。

夢、目標をもち、それに向かって努力すれば、必ず周りが支えてくれる。夢をイメージできない人は、好きなこと、夢中になれるものを探して大切にしてほしい。

どう生きるか決断する時に、夢、目標、大好きなものがあれば一歩前に踏み出すことができる。



【車椅子バスケの難しさを生徒が体験】

バスケットボール部の生徒が椅子に座ってシュートを試みますが、下半身が踏ん張れず、シュートどころではありません。宮島選手が車椅子で小刻みに方向を変えながらシュートされる姿は、日々の努力の賜物。練習は本当に辛いもので、車いすで走り回るため、手はパンパンに腫れ、タイヤを素手で止めるたびに、手のひらの皮は何度も剥けたそうです。



【生徒のからの質問】

Q：どれだけ練習されるのですか？

宮島選手：東京パラリンピックに向けてほぼ毎日3時間から5時間、練習します。チーム練習は週に2回行います。

Q：車椅子バスケを始めて苦労したこと、難しかったことは？

宮島選手：車椅子の操作です。車椅子にはブレーキがありません。手を使って進んだり、曲がったり、止まったりすることが難しかったです。

Q：普段の練習はどんなことをされるのですか？

宮島選手：体育館で車椅子の操作の練習。坂道を駆け上がる練習。シュート、パス、ドリブル練習。ウェイトトレーニングを行います。

Q：中学生の時にやっておけばいいことはありますか？

宮島選手：たくさんあるのですが、今日をやり切ることを意識してください。当たり前のことを当たり前ではなく、充実した日々を過ごすことが、将来の自分に大切なことになります。疲れるまで取り組むことで差が生まれます。

Q：自分の壁にぶつかった時はどうしたらいいのか？

宮島選手：起きてしまったことは、どうすることもできないので、何のためにそれを乗り越えなければいけないのか、本当に達成させたい目標があれば、人の真似ではなく、自分で考えられるし、乗り越えられる。

Q：初めてパラリンピックの代表選手に選ばれたときの気持ちは？

宮島選手：初めて選ばれたのは、大学2年の19歳の時でした。一人暮らしのアパートの部屋で、言葉にならない奇声が出ました。(笑) 自分の夢が達成された瞬間はこんな感じなのだ…と思いました。

Q：3大会パラリンピックに出て感じられたこと、次のパラリンピックへの決意を教えてください。

宮島選手：北京大会では、車椅子バスケの日本代表選手が夢で、そのままパラリンピックの舞台に出て後悔しました。なぜなら勝つことを意識するのが遅かったからです。世界と戦うための取り組む準備ができていなかった。ロンドン・リオでは日本代表選手として勝つこと、チームに貢献することを意識しました。現在の目標は、一日一日をどう過ごすかに集中しています。その積み重ねが、2020年の代表選手になり、世界と戦うときに生かされ、どう活躍できるかにかかっていると思います。

